

圖版である。先づ地圖上に位置を示し、遠望や實測圖を入れ、次で實物全部及その拓本を収め、更に必要な文字は殆んど實大と思はるゝ大きさの寫真と拓影とを併掲して以て研究者に實地に莅むが如き便宜を與へた事である。特に所要の文字一字のためにでも一枚の圖版を用ひた事は「精査」と言ふ名に耻ぢぬ近來の試みであると言へやう。(以上中村)

● 溫 故 雜 集

從來尾張國に於ける史料史蹟の探究踏査を行つた收獲の中極秀なるものを或は繪葉書に撮影し或は玻璃版に上せて發行し斯界に寄與する所が多かつた名古屋溫故會は今回又國寶弘法大師御入定勸決記、同七寺藏一切經、徳川侯爵家藏熱田社古圖、石河男爵家藏享元繪卷、情妙寺藏茶屋交趾貿易圖を四つ切大の玻璃版に附し溫故雜集と名づけて發行することとなり、去る五月卅一日に其の第二一切經を頒布した。此經は尾張權守大中臣安長が發願して當時の能筆に書寫せしめたもので、安元元年寫經の事

を始め治承二年に終了したものである。本揖は其内の般若經の唐櫃、同中蓋表面の釋迦十六善神、般若菩薩十六善神、裏面の識語、唐櫃内の小図、經卷表紙、⁴首、同裏面及び卷末を八枚の寫真とし之に解説を附してあつて、古文書、藝術の研究上少からず參考となるものである。(名古屋溫故會發行、非賣品)(松野)

● 二十史朔閏表 陳 垣 著

龔に元西域人華化考を著して東洋史學の進運に寄與せられたる陳垣氏近頃の快著である。著者は北京大學にありて從來の支那史學の研究法の科學的ならざるを慨き恒に各種の研究を發表して必ず一隻眼あるを示して居る。夙に東西年紀の研究にも潛心して支那曆西洋曆回曆に關し考覈する所多しと聞く、本書は即ち其の一端を發表せるものにして、支那史朔閏の研究を目的とし西曆回曆を附載したものである。宋の劉義叟の長曆に倣ひて漢高祖元年より起筆し、耶律儼の遼宋朔閏考錢侗の四史朔閏考、汪氏の長術清の萬年書は勿論、支那に存在する

あらゆる曆書を比較研究し、我が三正綜覽の體裁を參酌して民國二十九年までをも推歩立表してある。羅馬時代に於ける朔閏誤算の事より回曆の詳細を例言に叙し、其の結果に基きて推算畫定する所極めて精緻、處々に史實の年紀を掲げて先儒の計算並に舊記の誤れる點を指摘説明してある。我が三正綜覽に一日の誤算あるは周知のとであるが、本書は之をも考訂したるものにして、東西史研究上學術的價値の極めて豐なる好著とするに足りる。

卷首に年號通檢あり、卷末に魏蜀吳朔閏異同表、陳周隋朔閏異同表、日曜表を附し、叙文には史實紀年の誤謬の四五例につき其の誤れる淵源を闡明したる短篇が載せられてある。

● 魏書宗室傳注

羅 振 玉 著

羅叔言氏夙に魏書を校勘せしが舊槧古鈔本に於ても尙ほ明かならざる所あるを以て空しく稿本を篋底に藏せられた。然るに近年洛陽出土品に魏の宗室の人々の墓誌數十枚を得られたれば、此根本史料に基きて先づ通行本魏

書宗室傳の焉馬魯魚の誤を訂正し、更に進んで其佚せるものを補綴したるものを本書とする。通行本の史實に違ふもの多き中にても唐代に帝の諱を避けて人名を改め淵を深に作れるが如きは其の驚くべきものの一であるが、其の他此の種のもの甚だ多くある。先づ宗室世系表を掲げて之に補注を加へ本文に於ては神之平文諸帝子孫列傳第二の上谷公紇羅の傳より校勘考覆增補訂正を試み、孝文五王の廢太子恂、京兆王愉、清河懌、廣平王懷、汝南王悅に及んで居る。書籍の本文研究に舊槧古鈔本以上の校勘の重要事なるは贅言を須たぬが、而も舊槧古鈔本以上に根本史料として絶大の學術的價値ある墓誌を之に利用し、營に傳寫の謬を訂すのみならず、史の缺をも補ひたることは、以て本書の學術的價値が如何なるものなるかを推知するに足りる。

● 增訂歷代符牌圖錄

羅 振 玉 編

本書は數年前に刊行せし歷代符牌圖錄の增訂本にして前書刊行後、葉者の知見せし符牌を補録したれば、前書

の六十符四十九牌は増加せられて八十二符六十六牌なつて居る。卷上には春秋列國秦漢新莽隋唐武周の腰節牛節、虎節、虎符、魚符、龜符を影録し、卷下には宋遼西夏金元明の銅牌木牌牙牌を圖録してある。特に解説する所はなきも、好參考書たるを失はぬ。附録として補遺一葉がある。

●璽印姓氏徵 羅振玉著

支那に於ける姓氏の書は風俗通姓氏編、王符の潜夫論姓氏より元和姓纂、通志氏族略萬姓統譜等幾多の專書はあるが、近頃發見せられたる古代の璽印に右諸書に登載せられざる姓氏が夥多して存在して約五百以上に達して居る。本書は即ち特に此の點に留意して史書の缺を補はむが爲に編輯せられたるものにして、璽印でふ根本史料に據りたるものなれば、大に信據するに足るべきである之によりて舊記の誤謬を訂正し得たるもの決して尠くはない。一二の例をあぐれば廣韻其他姓氏書類に室中氏ミあるものが璽印にある室中氏の誤傳なるが如き、或は邯

鄆氏が古く甘單氏なるが如き、更に甚だしきものに至つては元魏の五姓なる慕容氏慕容氏普氏産氏が元魏に創まらずして既に漢代に存せし姓氏なるを知るが如きあり、從來の支那姓氏の研究に變動を生ずべきものが多い。韻守を以て序列を整へ卷末には姓氏索引を附し檢出の便に供してある。

●内藤博士還曆祝賀支那學論叢

本書は本會評議員内藤博士が本年を以て還曆の辰を迎へらるゝを以て、同僚知友受業生が祝意を表する爲に起稿贈呈せし記念論文集である。此の種の集には曩年ヒルト氏に對して行はれ、近くは白鳥博士に對しても行はれたるここがあるが、此の書は實に邦人學者のみならず佛國支那の學者をも網羅せる點にては日本としては空前のものに謂へる。卷首には壽言を載せ次に博士還曆畫像、(太田喜一郎氏筆)あり、次に明治三十年一月より大正十五年五月に至る内藤博士著作年表あり、本文は四六二倍版一千百餘頁の大冊にして東洋史に關する三十三家の論

文を收め門類具さに備つて居る。各編何れも心血を盡きたる研究のみなれば之を以て東洋史學の進運に寄與する所は蓋し尠くはない。殊に興味深きこゝは執筆者は獨り東洋史專攻者のみならず、國史西洋史朝鮮史地理學考古學支那哲學支那文學天文學の專攻者をも含み、而して其の研究する所は悉く東洋史に關する題目のみなることにして、要するに東洋史に關する各方面の研究をば古今を論ぜず收録し得たる譯である。百花繚亂として榮を競ひ華を爭ふの概があり、凡そ史學を志す者は何人も一讀せざるべからざる近來の好著で、無上の好記念物と謂ふべきである。茲に各編の要點を列舉するの煩さに堪へざれば題目と執筆者を左に開列して置くに留める。

- 北堂書鈔の舜典孔傳 文學士 石濱純太郎
- 高麗時代の文籍 稻葉 岩吉
- 五嶽具形圖に就いて 文學士 井上以智爲
- 法隆寺の建築様式と支那六朝の建築様式 文學博士 濱田 耕作
- 景教經典序聽迷詩所經に就いて

- 支那歴史記述起源考 文學博士 羽田 亨
- 經學史上に於ける穀梁家の地位 文學士 丹羽 正義
- Le seigneur Kong heou et le gobuz paul Pelliot 文學士 本田 成之
- 北支那先秦蕃族考 文學博士 小川 琢治
- 南朝に於ける士庶區別に就ての小研究 文學士 岡崎 文夫
- 遼陽喇嘛墳碑文の解説 文學士 鴛淵 一
- 西遼都城虎思斡兒朶考 王 國維
- 山井鼎と七經孟子考文補遺 文學博士 狩野 直喜
- 道 統 傳 文學博士 高瀬武次郎
- 儒學史資料として見るべき兩戴記 文學士 武内 義雄
- 支那人が塞外人を胡人と總稱する緣由に關する疑 文學士 那波 利貞
- 錮印姓氏徵序 羅 振王
- 前方後圓墳に關する一考察 梅原 末治
- 隋唐時代に支那に來住した西城人に就いて 文學博士 桑原 隲藏

○國史研究に於ける支那知識の必要

文學博士 黑板 勝美

○樂府の研究

文學士 倉石武四郎

○白蓮教の亂に就いて

文學博士 矢野 仁一

○朝鮮の幢に就いて

文學博士 松本文三郎

○校漢紀書後

傳 增湘

○焉支と祁連

文學博士 藤田 豊八

○崑曲より皮黃調への推移

文學士 青木 正兒

○黑龍江省呼蘭平野の開発に就きて

文學士 有高 巖

○ライブニッツの「支那の最近事」について

文學博士 坂口 昂

○應永外寇の真相

文學博士 三浦 周行

○條支國考

文學博士 白鳥 庫吉

○東洋天文学史大綱

理學博士 新城 新藏

○燉煌本文心雕龍校勘記

文學博士 鈴木 虎雄

○五代宋初に於ける安南の土豪吳氏に就いて

文學士 杉本直治郎

(京都寺町丸太町弘文堂發行、價八、五〇圓)(以上那波)

●Vom Bismarck zum Weltkriege, von Erich Brandenburg. (Berlin, 1924)

は、同時代を取扱へる著述としては、V. Valentin 博士の “Deutschlands Aussenpolitik von Bismarcks Abgang bis zum Ende des Weltkriegs” あるも、本著は、獨逸外務省の凡ての文書を利用して書かれた最初の著述である點に於て注目さるべきものである。而してこの著の取扱へる時代に相當する、已述の Die Grosse Politik に対照せしむれば甚はだ興味を感じる譯である。獨逸外務省公文書より直接に書かれたこと云ふ事は、本著の最大特色であると同時に、之に固有な短所を伴つて居る。即ち、獨逸文書以外の他國文書を毫も採用せなかつた事は大なる缺點とすべきである。併し、著者が獨逸側の史料のみを取扱ひながら、嚴正なる歴史家の立場を失はなかつた事は誠に賞讃に値すべく、且本著によつて從來曖昧であつた事件にして明白にされたものが多々ある。

三國同盟、三國協定の成立によつて “Splendid isolation” に不安を感じ來つた英國が、一八九八年以後の三年